

# 公認会計士「研修出向制度」

## 体験者リポート

vol. 3

取材・文／南山武志 撮影／横田憲治

新日本有限責任監査法人が昨年スタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・リポートをお届けする。



日本ガイシ株式会社



新日本有限責任監査法人

### 出向に自ら志願

—監査法人には約7年いらっしゃつたのですね。

猪口 監査法人に入所する前、公認会計士の仕事は、経理や財務に不慣れな方々の相談に乗り、指導することで、感謝されるものだと思い込んでいました。しかし、主に担当したクライアントが銀行や証券会社といった金融業だったこともあるのですが、経理の体制はきちんとされていて、相談も彼らなりの結論が既に出てる案件を確認するようなものばかり。逆に、ある経理処理について質問したら、「それ三度目ですよ」とうとまれたり。つまり、先輩たちも同じことを聞いていたんですね(笑)。当初は、理想と現実の違いに大きな戸惑いがありました。

ただし、企業決算は監査を経て世の中に公表され、そのことによってお金の流れを生み出しているわけですから、社会的な意義と責任の重い仕事だという自覚は、常にありました。それがあつたから、7年間続けてこられたのだと思います。

—出向には、自ら手を挙げたとか。

猪口 昨年の3月頃、事務所の掲示板に、出向者募集の案内が出ました。内容を確認すると、出向先は名だたる企業ばかりですし、出向中の待遇も充実しています。

—出向には、自ら手を挙げたとか。

猪口 昨年の3月頃、事務所の掲示板に、出向者募集の案内が出ました。内容を確認すると、出向先は名だたる企業ばかりですし、出向中の待遇も充実しています。

この会社で働き始めて、新たなる夢が生まれた。今、目標を明確に定め、自己成長を継続中

猪口 英雄・33歳

日本ガイシ株式会社 財務部 主計グループ 主任

してきました。これは応募しない手はない、家族の了解を得たあと、すぐに申し込みました。福岡事務所からの応募で、愛知県への転居をともなう出向でしたが、無事に着任することができました。

仕事をやりがいは感じていましたが、毎年ルーチンの業務という現実に、マネリを覚え始めました。また、

仕事を通じ  
「いざれ海外へ」の夢が

—日本ガイシのイメージは?



猪口 恥ずかしながら、出向前に名前を知つて\_takai。『碍子』って何だ』というレベル(笑)。

ここで実際に働き始めてわかつたのは、多くの子会社や事業部があり、それぞれのスタンスの違いが想像以上に鮮明なこと。監査法人という組織は同質的な人々の集まりですし、接するクライアントは基本的には経理・財務の方ばかり。この差を体感できただけでも、事業会社にきた意味があつたと感じています。

—IFRSプロジェクトには、どのようにかかわっているのですか?

猪口 導入ロードマップの作成・進捗管理、アカウンティングポリシーの策定、連結パッケージの改定など、IFRSに関連する仕事はほぼすべてかかっています。私の仕事への取り組みが、プロジェクトの進捗に影響しますので、大きなプレッシャーとやりがいを感じています。

監査法人時代と比べて特徴的なことは、「説明する仕事」の比重が大きいことです。IFRSに準拠した会計方針を監査法人に説明したり、IFRS導入後の業務について子会社や事業部に説明して回るなど、本当に多くの機会があります。ところが、今申し上げたようにそれ立場や空氣の差がある、同じように説明しても微妙に反応が違ったりします。どう伝えればまた、同じように説明しても微妙に反応が違ったりします。

—今後の目標を。

猪口 なるべく子会社や事業部に負担をかけることなく、IFRSに「軟着陸」できる体制を整えることが、残り

2年間の目標になります。それが最大の目標であることは、言うまでもありません。また、個人的な目標としては、英語によるコミュニケーション能力を、磨いていきたいと考えています。昨年9月、10日間ほど欧州に出張させていただきました。そこで、自分の未熟な語学力に悔しい思いをして、グローバルに展開する企業で働くならば英語力は不可欠だと、痛感しました。今年9月にも欧州に出張しますので、1年間の成長を実感できればいいですね。

実は英語力を磨きたいのは、今の仕事を通じて将来の新たな夢が芽吹いたことも、モチベーションになっています。欧州出張では、当社から出向されている人や、現地の監査法人で働く日本人と出会いました。日本と異なる風土の中で、状況を切り開こうとしている人たちは、このうえなく魅力的に映りました。

出向期間が終わる2年後、監査法人に戻つて今回の経験を生かしたいと思っていますが、現在の仕事は非常にやりがいがあり、会社にも愛着を感じています。いずれにしても、海外に出て仕事をしたいという気持ちが、日々強くなっているのは確かです。

—日本ガイシのイメージは?

Hideo Inokuchi  
Profile

1978年4月10日 福岡県大野城市生まれ。  
2001年3月 一橋大学商学部卒業  
2003年10月 公認会計士第二次試験合格  
新日本監査法人入所  
2010年7月 日本ガイシ株式会社へ出向  
家族構成=妻、息子1人

猪口 比較的立場や空氣の差がある、同じように説明しても微妙に反応が違ったりします。どう伝えればまた、同じように説明しても微妙に反応が違ったりします。

監査法人にとっても得るもの大きい制度だと思う。今後、国内のクライアントが増えることは、あまり期待できない。たぶん、監査法人も市場を海外に求めざるを得ない。グローバルに展開する企業活動を経験した会計士の存在は、大きな武器となるはずだ。

—監査法人には約7年いらっしゃつたのですね。

猪口 監査法人に入所する前、公認会計士の仕事は、経理や財務に不慣れな方々の相談に乗り、指導することで、感謝されるものだと思い込んでいました。しかし、主に担当したクライアントが銀行や証券会社といった金融業だったこともあるのですが、経理の体制はきちんとされていて、相談も彼らなりの結論が既に出てる案件を確認するようなものばかり。逆に、ある経理処理について質問したら、「それ三度目ですよ」とうとまれたり。つまり、先輩たちも同じことを聞いていたんですね(笑)。当初は、理想と現実の違いに大きな戸惑いがありました。

ただし、企業決算は監査を経て世の中に公表され、そのことによってお金の流れを生み出しているわけですから、社会的な意義と責任の重い仕事だという自覚は、常にありました。それがあつたから、7年間続けてこられたのだと思います。

—出向には、自ら手を挙げたとか。

猪口 昨年の3月頃、事務所の掲示板に、出向者募集の案内が出ました。内容を確認すると、出向先は名だたる企業ばかりですし、出向中の待遇も充実しています。

—出向には、自ら手を挙げたとか。

猪口 昨年の3月頃、事務所の掲示板に、出向者募集の案内が出ました。内容を確認すると、出向先は名だたる企業ばかりですし、出向中の待遇も充実しています。

—今後の目標を。

猪口 なるべく子会社や事業部に負担をかけることなく、IFRSに「軟着陸」できる体制を整えることが、残り